

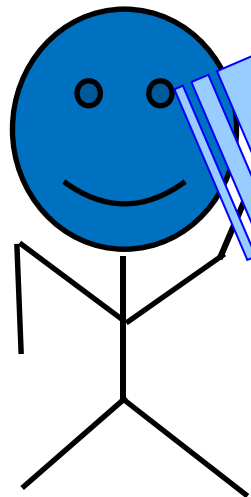
地理教育方法・評価 演習



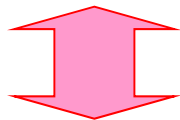
第2講 教材の機能と活用(1)

— 社会科授業で、どのような教材が、なぜ必要か —

Ⅰ 教材とは何か, その目的



教育内容



教材

過去の, 他所の, 目の前の
社会(らしきもの)

教材とは, 認識主体と認識対象を
媒介 **Medium/Media** するもの

教材とは, 教育内容を教授・学習させる
素材 **Material** となるもの



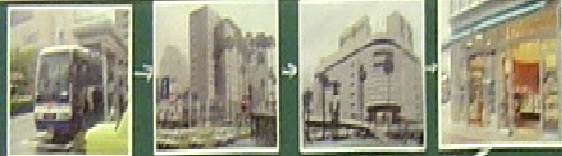
【本日の演習】

坂田実践「駅前町にぴったりのキャッチフレーズを見つけよう！」の視聴

1. 本授業で教師はどのような教材を活用しているか、
列挙しなさい。(単元レベル, 本時レベル)
2. 各教材が社会認識形成の上で果たしている役割
＝機能を指摘しなさい。
3. 1・2は中等社会科(あなたの実習経験)における一般的
なそれとはどこが違うか、説明しなさい。

1/2 たんけんたい えき前町へ

えき前町にぴったりのキャンパスを考えよう。



のり物②

のりものかつかえて大々ビルやホテルやビルがある町

徳島のけんかんで、多くの人利用する町

のりものにとりあ人があまる町。(6ばん)

たて物①

大きいビルが多い町

(2ばん)



新しい大きなビルやたてものが多い町(4ばん)



ホテルや大きなビルがなる町



大きいたてものがある、のりものか通る町

(11ばん)

たて物のり物
①+②=③

汽車やバスがたくさん走る町 (10ばん)



けん外や外国からも人があつまる町(5ばん)



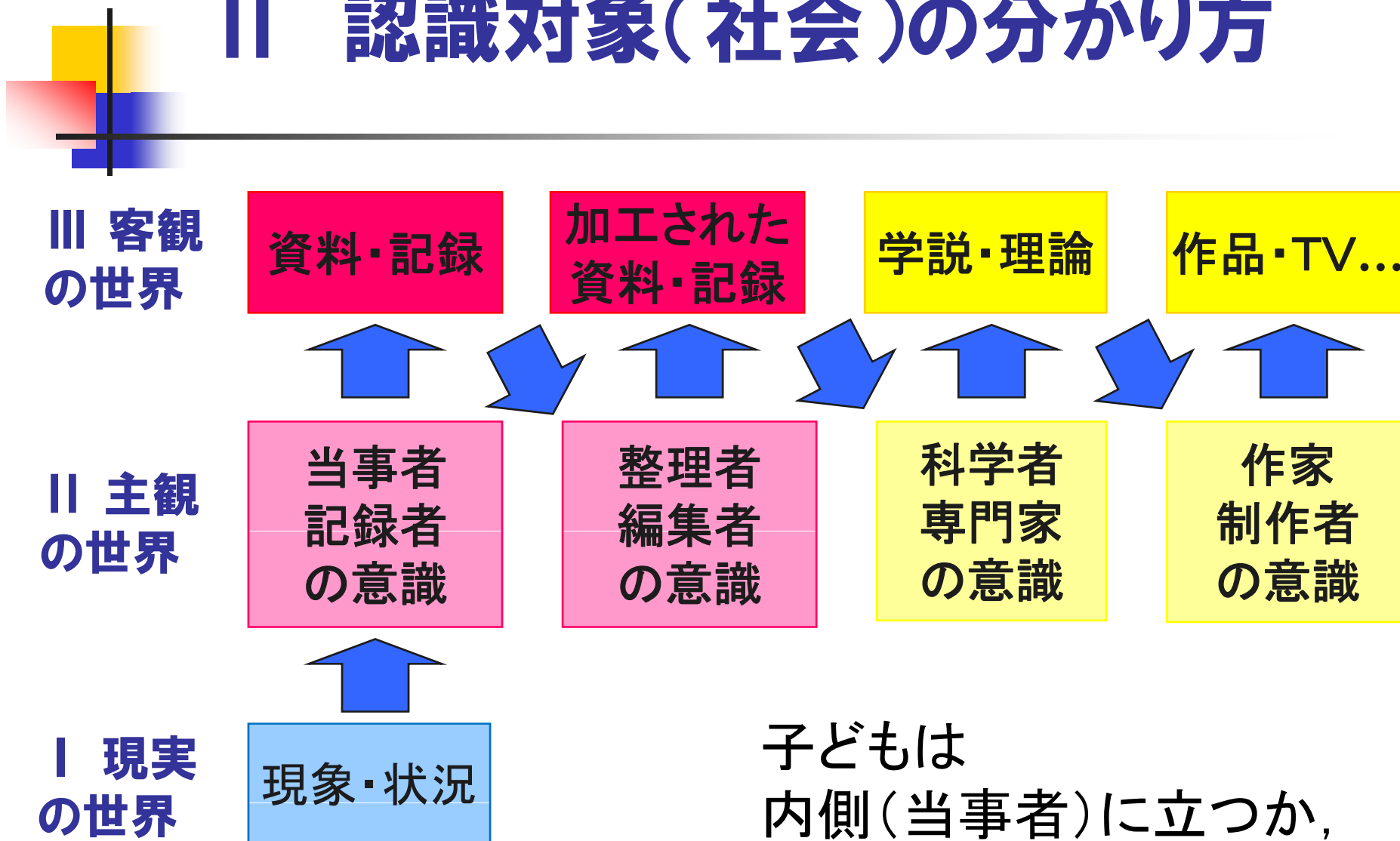
外国や県外からとまりにくる町(11ばん)





教材リスト	社会認識形成上の機能

II 認識対象(社会)の分かり方



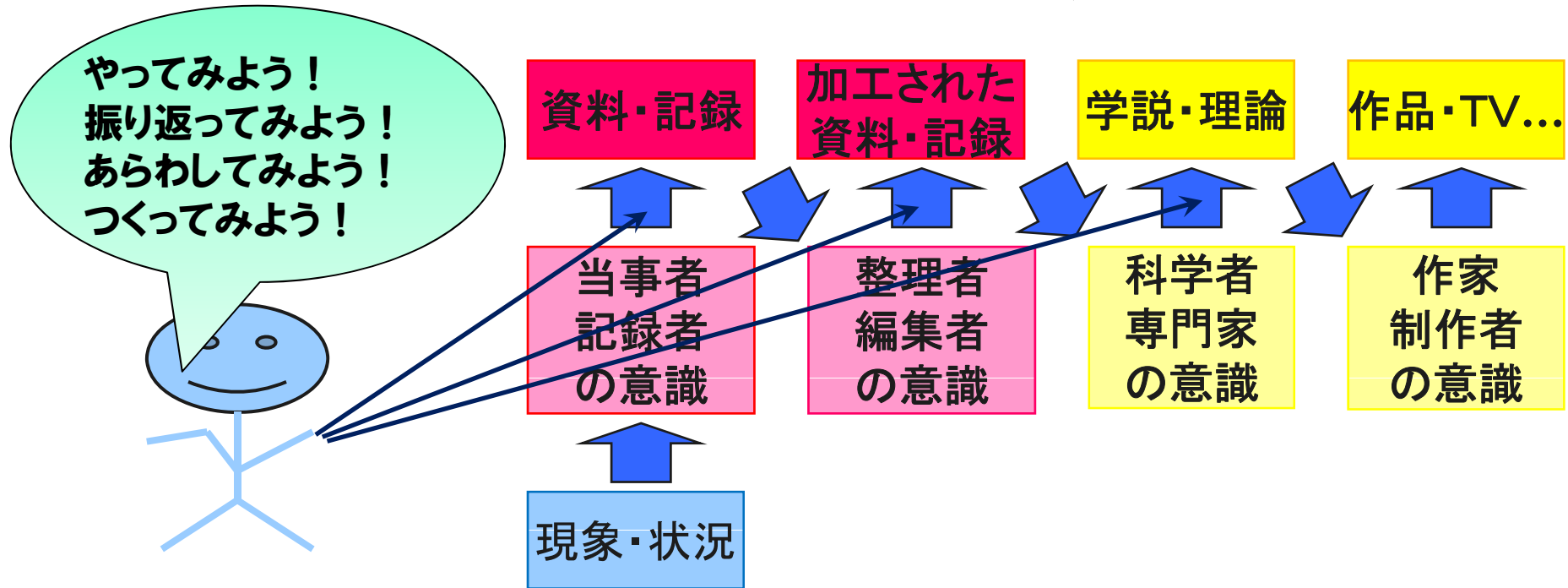
子どもは
内側(当事者)に立つか,
外側(第三者)に立つか

教材 = 子どもが(主観を託して)社会を表現した作品

授業 = 作品の制作と省察を通じて社会を構成

A : 教材を子どもに構成させる

子ども自身が経験したことを, 資料・記録に残す
子ども自身が解釈したことを, 見方として表現する



教材 = 他者が社会を(主観を抑えて)再現した知識

授業 = 知識の分析と批判を通して社会を説明

B : 教材を子どもに分析させる

経験された結果を提示し、意味を読み取らせる
解釈された結果を提示し、合理性を分析させる

なにそれ？
どういう意味かな？
なぜ？ どうして？
本当にそうかなあ？

資料・記録

加工された
資料・記録

学説・理論

作品・TV...

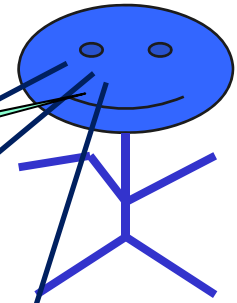
当事者
記録者の
意識

整理者
編集者の
意識

科学者
専門家の
意識

作家
制作者
の意識

現象・状況



初等社会科における 構築主義を中核にした授業展開

パターンA

駅前町の見学

見学のメモ, 絵・写真

暫定 駅前マップ (絵地図)

キャッチフレーズ

黑板でのまとめ

A: 商業施設の集積性 +
B: 交通網の中心性 = C: 機能複合性

完成 駅前町マップ

概念化

構造化

判断の根拠づけ

類似・差異の分類 (横軸)
序列性の付与 (縦軸)

